

2024 年度

桃美会プロジェクト助成
報告書

NAGOYA
ZOKEI
UNIVERSITY

2024年度 桃美会プロジェクト助成一覧

No.	名称	代表（教員）	主体	共同担当者
1	ダム貯蔵酒広報デザインプロジェクト	東仲	学生	
2	なしろのあそび展 展示運営プロジェクト	外山	学生	
3	地域課題解決演習「マイクロデザインセンター」プロジェクト（教員と学生）	江津	学生	辻（教員）
4	彩の回廊プロジェクト（愛知万博20周年記念事業） インスタレーション制作参考視察旅行	溝口	学生	原（教員）
5	屋外ギャラリー 展示プロジェクト2024	佐藤	学生	染谷（教員） 荒川（教員）
6	和の伝統プロジェクト -仏教美術保存修復-	濱田	学生	阿部（教員） 鈴木（教員） 齋藤（教員）
7	パリ・ボザール アーティストとの交流プロジェクト 久屋大通公園「OMOTEDE」プロジェクト	原	学生	
8	MEMORIES 映画『ブルーピリオド』協力記録展 学生協力プロジェクト	高橋	学生	安井（学務） 小粥（社会交流）

申請額合計	決定額合計
¥965,000	¥500,000

プロジェクト名： ダム貯蔵酒広報デザインプロジェクト

期 間： 2024 年 4 月～ 10 月

指 導 教 員： 東仲 雅明

参 加 者 数： 映像文学領域 10 人

プロジェクトの概要

ダムを天然の貯蔵庫として使い熟成させた日本酒「ダム酒」を広報するイベントの広報ツールデザイン制作プロジェクト。

愛知・岐阜の13酒蔵がそれぞれの地元にある4つのダム(矢作ダム・丸山ダム・阿木川ダム・小里川ダム)堤体内に日本酒を年単位で貯蔵し、寝かせた熟成年数による味の変化を楽しむという新たな提案を広報する目的で、参加酒蔵が名古屋市内の酒販店協力と国税局の後援を得て開催する試飲販売イベント『ダム酒フェス』が名古屋・栄で2023年より開催されている。初年度は選抜学生が広報(フライヤー・ポスター)をデザイン。2024年度はプロジェクト授業として開講し、映像文学領域3年生10名が依頼案件である広報ツールに加え、グッズ制作提案に取り組んだ。

デザイン制作提案と販売

1. 広報フライヤー・ポスター [依頼案件]

告知に使用するB5フライヤーとB1ポスターを学生10名により17案を制作提案。プレゼンボックスで実行委員会メンバーによへ提案発表。同日選考し1点を採用。サカエチカなどでの掲出やSNS広報で実使用した。

2. イベントグッズ [本学提案]

イベント当日に販売するグッズアイテムの検討をし「ボトルトート」「ミニサコッシュ」「缶バッジ」の3種類を本プロジェクトから提案することとし、試作品*を制作した。

* 提案試作品は桃美会助成金により制作いたしました。

2024年度は残念ながら前売りチケットの販売状況が芳しくなかったため、缶バッジ(デザイン3種)のみ試験販売いただいた。



フライヤー・ポスターデザイン選考会



サコッシュ(左)とボトルトート(右)の試作品。量産コストを考慮したインクジェット印刷仕様のため、外注とした。



イベント当日に行われたフライヤー・ポスター採用者表彰

参加者の声

- ・通常授業で色々なデザイン課題に取り組んでいるが、外部の方と協力しデザインをつくりあげる体験が楽しかった。
- ・ビジュアルを手描きし大変だったが、それを使っのグッズへ展開が楽しかった。
- ・ふだんの課題では提案どまりの提出だが、実際に商品化できるレベルの試作品として仕上がったものが確認できたのが嬉しかった。
- ・試作が選ばれたらもしかしたら採用されるかもって思え、すごく楽しかった。ダム酒の存在を知り興味を持つきっかけになった。

2025年度への継続

2024年度の桃美会助成で試作させていただいたグッズデザイン提案活動が実行委員会で評価され、2025年度9月イベント計画の中に本学提案デザイングッズの販売予算が組み込まれることになり、この産学連携プロジェクト授業は継続開講。今年度は学生17名が制作活動中です。

プロジェクト名： なしろのあそび展 展示運営プロジェクト

期 間： 2024年6月～9月

指導教員： 外山 貴彦

参加者数： 9名



プロジェクトの概要

おかざき世界子ども美術博物館の企画展「スイッチあそび展」の作品を2024年ギャラリー企画展「なしろのあそび展」として展示するプロジェクト。スイッチは2009年に旧デジタルメディアデザインコースの教員と学生により結成されたユニットで現在も活動している。

今回のプロジェクトではスイッチが手がけてきた作品を、情報表現領域の外山スタジオのゼミ学生とともに展示運用することと、過去の仕組みを現在の仕組みへ作り替えて再現すること、の2つに取り組んだ。

展示搬入の作業では、プロジェクターの設置や高所での作業、PCのセッティングやセンサーのセッティング、作品筐体の組み立てなどを学生達に行ってもらった。過去の仕組みの作り替えでは、現在使うアプリケーションやプログラム、センサーに置き換えて再現する開発と作業を一部担ってもらい、インタラクティブ作品の仕組みや運用、展示のノウハウをゼミ学生たちに体験してもらった。

このプロジェクトを機に、新たにスイッチとして継続する活動へ参加してくれるゼミ生が現れ、2024年度末から新作の制作を手がけている。



参加者の声

・搬入作業で、プロジェクターを吊ったり、センサーの位置をプログラムを確認しながら調整したりと、作品が動くまでの工程が思ったより大変なんだと感じたけれど、いい経験になった。

・インタラクティブコンテンツなどPCを使う作品は、起動や終了、メンテなど、当番に入る人が操作できるような仕組みを作ることやマニュアルを作る必要があるなど、展示以外に必要なものがあることを知れた。

今後の展開

スイッチの作品は2024年のおかざき世界子ども美術博物館、造形大学ギャラリーの展示の他に、神戸ポートタワーや魔法の美術館の巡回展示などを行っており、2024年度末から2025年度にかけても新作や既存作品の運用が増えた。今回参加のゼミ学生達は、2025年度も引き続き制作と開発、発表が持続できていて、この助成が効果的だったと考えている。

プロジェクト名： 地域課題解決演習 「マイクロデザインセンター」プロジェクト

期 間： 2024 年 4 月～ 2025 年 3 月

指 導 教 員： 江津 匡士

副 代 表 者 等： 辻 琢磨

参 加 者 数： 20 人（地域社会権領域・情報表現領域・空間作法領域）



プロジェクトの概要

名古屋造形大学の西に広がる名城公園では、愛知県体育館の移転新築工事が進められ、新たな賑わいの創出が期待されています。一方、東側に目を向けると、多くの住民が生活する地域でありながら、衰退著しい商店街が存在します。私たちは、美大ならではのスキルと創造性を活かし、学生が主体的に関わることで、地域を魅力的な場所へと再生できないかと考えています。この柳原通商店街に対する取り組みとして、2023 年度より「マイクロデザインセンター」を運営しています。「マイクロデザイン」とは、例えば、店舗のメニュー表のデザイン、古くなった椅子の張り替え、新たな棚の製作、模様替えの提案といった、身近なデザイン活動を指します。この「マイクロデザインセンター」は、デザインのプロセスと地域とのコミュニケーションを通じて、学生が地域との関係性を構築していくプロジェクトです。学生たちは、フィールドワークやリサーチを通して得られた多様な課題に対し、自身の関心や得意な分野を活かして、どのような解決策があるのかを考察し、具体的な創作活動を行います。そして、その成果物は実際に地域の中で活用されることを目指します。私たちはこの活動を通して、地域に対して何ができるのか、主体的に関わるためには何が必要なのかを深く考えます。地域との関係性を築きながら、小さくてもポジティブな変化を生み出すこと、それが私たちの目的です。24 年度は学生 20 名が参加 7 店舗に対して取り組みを行いました。

参加者の声

・内向的で人と関わるのが苦手だったけど、マイクロデザインセンターの取り組みを通して人生が
いい意味で変わった気がする。

・最初は怖い印象があった店主が
話すととても優しい人で、プロジェクトで
関わりを深めて初めて気付かされることがある。

今後の展開

こうした私たちの活動に対して商店街組合の合同会社大正の安藤氏より中杉ビル（柳原4丁目4-4）の一室を活動拠点としてご提供していただき、新たなプロジェクト「地域活動拠点スタートアップ計画」へと繋がりました。
これまで以上に地域に寄り添った取り組みを進めていきます。

プロジェクト名： 彩の回廊プロジェクト インスタレーション制作参考視察旅行

期 間： 2024 年 5 月～ 8 月

指 導 教 員： 溝口 周子

副 代 表 者 等： 原 游、渡辺 泰幸、中野 明里

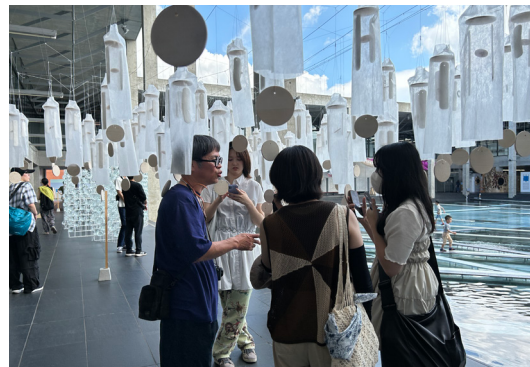
参 加 者 数： 36 人 (空間作法領域・美術表現領域・視覚表現領域・情報表現領域)

プロジェクトの概要

「彩の回廊プロジェクト」とは、愛知万博／愛・地球博より 20 年となる 2025 年に向け愛知県が準備を行う記念事業の一つである。愛知県内の大学が、モリコロパーク内に設置された 4 か所の木軸モジュールへ、季節ごとに SDGS をテーマとしたインスタレーション展示を行う。名古屋造形大学は空間作法領域の学生を中心に美術表現領域、視覚表現領域、情報表現領域からも参加した 30 名程度のプロジェクトチームとして参加した。学生達の中には屋外でのインスタレーションを「初めて行う」または屋外展示表現自体を「見たことが無い」という学生もあったため、2024 年開催の越後妻有トリエンナーレ（新潟県）を視察する 1 泊 2 日のツアーを計画、旅費補助として桃美会補助金を使用させて頂いた。

ツアーにはプロジェクト外の参加希望者を含め計 36 名が参加、夏休み 8 月 9 日～ 10 日に貸切バスによって新潟県十日町周辺のアート作品群の視察を行った。初日朝 7 時に名古屋駅を出発し、約 6 時間をかけて十日町へ到着。ジェームズ・タレル氏「光の館」に感動の声を上げ、原游先生と渡辺泰幸氏の作品展示がある「里山現代美術館」にて作品に没入した。その後周辺美術館を視察後、小学校をリノベした「三省ハウス」に全員で宿泊。沢山の作品を見学し興奮気味の学生達には、さらに夜の花火、満天の星空の流れ星を観察するという有意義な素晴らしい 1 日であった。翌日は原游先生プロデュース「上郷クローブ座レストラン」でランチをいただきながら公演を見学し、喜びと笑いに包まれた。

これほど沢山の現代美術作品、インスタレーションを一度に見学できる機会はまず無く、若い学生達には心に強く残る学びとなったに違いないと考える。貴重な体験が今後の作品制作に活かされることを期待したい。



参加者の声

- ・2日間という短い時間でしたが感想を書ききれない程の沢山のアーティストの作品を見てとても発見や学びが多い時間を過ごしました。
- ・今回の視察旅行で最も勉強になった展示は、「絵本と木の実の美術館」(田島征三)です。作品と場所の文脈が自然に結びつき、説得力を持つ。田島氏の作品からとても大切なことを学ばせていただきました。
- ・2日間を通して学校生活では感じることでできない経験をすることができました。土地の特色や魅力を活かすということの素晴らしさ、そして課題に取り組む中でその難しさも感じました。今後の制作ではその場所にある意味ということを大事にしていきたいです。
このような機会をつくっていただきありがとうございました。

見学場所

8 月 9 日

「ジェームズ・タレル光の館」
「里山現代美術館」
「絵本と木の実の美術館」
「農舞台フィールドミュージアム」

8 月 10 日

「越後松之山森の学校」「最後の教室」
「上郷クローブ座レストラン公演」
清津狭のトンネル内作品群など

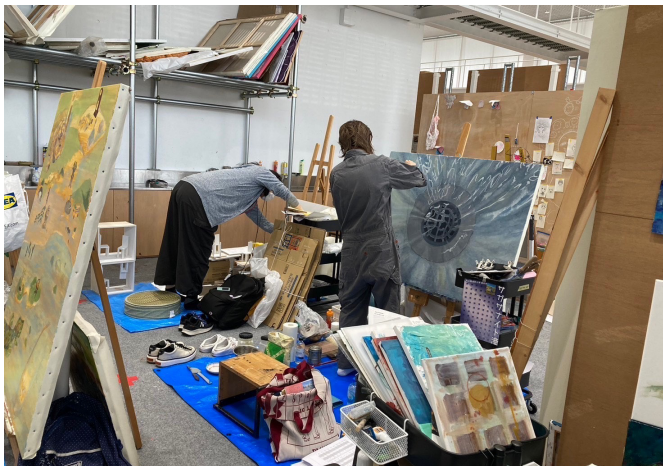
プロジェクト名： 屋外ギャラリー展示プロジェクト 2024

期 間： 2024 年 11 月中旬～ 12 月はじめ

指 導 教 員： 佐藤 克久

副 代 表 者 等： 染谷 亜里可 荒川 朋子

参 加 者 数： 美術表現領域 22 名



プロジェクトの概要

今回で3回目となるこのプロジェクトは名古屋造形大学美術表現領域で洋画・現代美術を学ぶ2年生が、展覧会を作り上げていく流れを多角的に経験するプログラムである。事前準備の段階から参加する皆が積極的に議論し合い、共有し、先輩のアドバイスも受けながら【統括】、【デザイン・広報】、【展示設計】の3つのチームで実に建設的に進行していった。

展覧会タイトルや、軸となるテーマも学生たちが決定する。今回のタイトル「サガサナイト港」は異なる性質の者同士が港で錨をおろしているイメージである。目指す行き先が異なる複数の個性が、同じ時、同じ場所にたまたま停泊しているという、バラバラな思惑を上手くまとめる括りを見つけたといえよう。

個々に視点をうつすと、新しさという価値観に挑んでいたり、作家としての方向性が見えてきた者など様々だったが、この展示の肝である場所性については展示方法の造作などから皆が真剣に取り組んでいたのが垣間見えた。2年次の段階に行うこのプロジェクトの意義を再認識することができた。



参加者の声

- ・展示の場所も大事ななって展示を終えて思った。展覧会場所が過酷な場所だったから。作品の横で水が噴き出したり、在廊中も寒かったです。
- ・私は平面の作品しかやったことがなかったから、ビデオとかの制作風景を見れたのがよかったなって思います。良い意味で皆バラバラだったから。それこそほんとにサガサナイト港で最初言った、港にそれぞれの船がみたいな、わりとそういう感じがでてたんじゃないかなって思いました。
- ・展覧会を終えて結構満足できた。運営をメインで動かしてたっていうのもあるけど、最終的に皆それぞれの色がでたというか結構色んな角度の見どころがある感じで、なかなか良かったと自分的には思う。
- ・それぞれのスタイルがあると感心しました。平面も立体も映像もあって、グループ展ならではの面白みは出てたんじゃないかなって思うし、自分個人としてもすごい良い経験になったなと思う。

教員からのコメント

展示期間中、楽しそうに展示を見て回る夫婦らしき人があった。学生の祖父母にあたるくらいだと思う。靴を脱いで、構造物の中に交代で入り、映像を立ち止まって眺め、上を見たり下を見たり、楽しそうに意見を交換しながら会場で長い時間を過ごしていた。今回の屋外ギャラリープロジェクトが学生の中に「実感」として残ることを願っている。(荒川朋子・美術表現領域非常勤講師)

プロジェクト名： 和の伝統プロジェクト - 仏教美術保存修復 -

期 間： 2018 年度から今現在

指 導 教 員： 濱田 樹里

副 代 表 者 等： 梶野 靖代 齊藤 晴香 鈴木 靖代

参 加 者 数： 美術表現領域・映像文学・視覚表現領域・地域社会圏・地域建築領域・空間作法領域
情報表現領域・大学院 年間 約 80 人



プロジェクトの概要

千年以上も受け継がれてきた絵画様式である日本画技法を用いて絵画技法や和の装飾美について表現技術を研究する。彩色技法基礎から応用までを日本画を描く事で学び、歴史的絵画の模写を通し、仏教美術における保存修復事業を行い、文化財について研究するプロジェクトである。

仏教美術への理解を深め、歴史的絵画を学生自身が熟覧調査し、保存修復について検討する。また古典技法を生かした作品制作へ展開していき、様々な表現への可能性を探究するプロジェクトでもある。日本画研究としてアジアの絵画表現の在り方を探究し社会と関わりを考えていく。
纏網彩色から始まり、本学園の浄土真宗に伝わる【親鸞上人伝絵】の現状模写を行い保存修復研究するプロジェクトである。



参加者の声

- 纏網彩色:日本画の顔料に本格的に触れました。日本画材でのムラのない平塗に苦戦しつつも楽しく制作したアジア神仏殿での特有のグラデーションを学び興味が湧きました。
- 洛中洛外図:日本の伝統色について混色や重色など考えさせられました。金箔を貼る技術については当時の絵師の高い技術力を自分自身が身をもって体験し、思わず呼吸を忘れるほど集中しました。伝統は高い技術によって受け継がれてきたことを学びました。
- 自由模写:今までに自分のした事のない表現方法や技術を、日本画作品の模写をすること学びました。特殊な技法などには頭を悩まされましたが完成させるたびに自分の成長を感じ、とても達成感がありました。
- 空間の切り取り方や線の強弱、筆の流れに意識を向けて描くことで表現の繊細さや動きを学ぶことができました。
- 親鸞聖人伝絵:初めての截金に挑戦したが原画のように細く貼るのがとても難しかった。日本画材を使用して、筆で建物の細い直線などは練習の必要性を痛感しました。また、絵具の水分調整などを考える大切さを理解し、色を原画のように鮮やかに作れたときは嬉しく、貴重な経験ができた。

今後の展開

来年度からは、国宝・京都神護寺【高雄曼荼羅】復元模写を5~10年計画で始める。同時に千年の歴史がある近郷最古の神社である東郷の【富士浅間神社天井画制作】を高大連携事業として3年計画で行い奉納する。さらに国際的活動に拡がり、国立台湾芸術大学と技術研究交流会を台湾にて行う予定である

プロジェクト名： ①パリ・ボザールのアーティストとの交流プロジェクト
②久屋大通公園 OMOTEDE プロジェクト

指導教員： 原 游



期 間： 2024 年 9 月
副 代 表 者 等： 佐藤 克久
参 加 者 数： 美術表現領域 16 名

期 間： 2024 年 7 月～2025 年 3 月
副 代 表 者 等： 丸山 のどか
参 加 者 数： 映像文学領域 4 名

プロジェクトの概要

①パリ・ボザールのアーティストとの交流プロジェクト

マティアス氏が来日し、名古屋造形大学 屋外ギャラリーにて美術表現領域 洋画専攻 3 年生を中心に 20m の紙にドローイング制作した。これは一般公開されており、地域の方や子供達も一緒に参加した。

また、マティアス氏の作品を見せてもらいアーティストトークを行った。その後、学生がベジタリアンのマティアス氏の為に豆腐餃子でのおもてなしを企画して交流した。

②久屋大通公園 OMOTEDE プロジェクト

名古屋造形大卒業生が企画した「表で遊ぶ」をテーマにしたイベントに映像文学領域 3 年生と卒業生が作家として作品を発表、スタッフとして手伝った。

参加者の声

① 音楽を皆で聴きながらドローイングするのは初めての経験だった。

② 2日のうち快晴の日と雨の日があり、様々な天候への対処が
良い経験になった。作品へのアドバイスをいただいた。

プロジェクト名： MEMORIES 映画『ブルーピリオド』協力記録展 学生協力プロジェクト

期 間： 2024 年 4 月～ 9 月

指 導 教 員： 高橋 綾子

参 加 者 数： 22 名（美術表現領域・映像文学領域・情報表現領域）



萩原健太郎監督が来場してくださいました

プロジェクトの概要

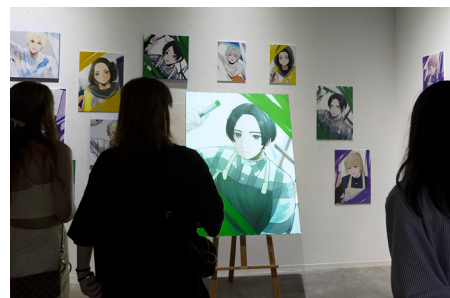
映画『ブルーピリオド』は、絵を描く悦びに目覚めた主人公が、美大を目指して情熱を燃やす物語です。撮影に使われたのは、小牧市から名古屋市内に移転した本学の旧キャンパスで、2022 年まで実際に使用されていた校舎です。今はもう解体されてしまいましたが、さまざまな創作と若い情熱（エネルギー）の痕跡があった場所でした。そこで繰り広げられた熱い映画制作の現場に学生たちも立ち会うことができました。本展覧会では、映画の公開に先立ち、実際に撮影で使われた絵画作品や小物、衣装などを展示しました。

学生は映画のキャラクターを描いたり（ファンアート）、インタラクティブ作品を展開し、映画の世界を広げてくれました。また、実際の映画撮影に参加した美術表現領域の学生たちの作品も合わせて展示を行いました。

参加者の声

- ・小牧キャンパスが撮影に使われて映像で残ったのがうれしかった
- ・友達や先生が参加していたので、写真や作品を探すのが楽しかった
- ・映画の制作現場などを知りたかったので参加してよかった

第2会期 BOX 展示より抜粋



04：ファンアートボックス（体験型アート展示）
情報表現領域 外山ゼミ（スイッチ）
映像文学領域 三輪ゼミ（3 年次）



06：マイアートボックス（撮影参加学生作品展示）
美術表現領域 3・4 年次生

展覧会情報

【第 1 会期】2024 年 7 月 6 日（土）～ 8 月 2 日（金）※日・月閉廊

【第 2 会期】2024 年 8 月 3 日（土）～ 8 月 25 日（日）※月・火閉廊

総来場者数 3160 名